

農技セ第5512号
令和6年8月9日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

令和6年度農作物病虫害発生予察情報について

令和6年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和6年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号

令和6年8月9日
徳島県

- 1 病虫害名：ワタミヒゲナガゾウムシ（コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科）
Araecerus fasciculatus (DeGeer)
- 2 発生物種：温州ミカン（施設栽培）
- 3 発生地域：県南部
- 4 発生概況
令和6年6月、県南部のハウスミカン園において樹上の腐敗果実や落下した果実に多くの成虫を確認した(図1)。また、着色期の果実のへた部周辺には幼虫がおり、果実が黄変し落果する被害が認められた(図2)。
虫体を採取し、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、ワタミヒゲナガゾウムシと判明した。
- 5 形態及び生態
 - (1) 成虫は体長2～5 mm程度で黒褐色をし、素早く飛翔する。食痕は、浅いかすり状のものから果肉部に達する孔まで多様である。
 - (2) 幼虫は体長1.5～5.5mm程度で白色のイモムシ状である。
 - (3) 成虫は果皮内に産卵する。孵化した幼虫は果実内部に食入し発育する。
 - (4) 国外では露地カンキツの果実が加害された事例があるが、国内では露地カンキツでの直接的な被害は確認されていない。
 - (5) 本虫は本州以南に古くから生息しており、ハウスミカンでは福岡県、佐賀県、香川県、和歌山県で被害が確認されている。
- 6 防除対策
 - (1) 登録農薬はピフェントリン水和剤のみで、成虫発生期に散布する(表)。
 - (2) 生理落果や摘果した果実は発生源となるので、園外で埋没処分するか、ビニール袋へ入れて密閉処分する。収穫後から次作の開花期の間の除去を徹底し、とくに、ハウスビニール被覆の1か月ほど前までには、園内の果実を一掃しておく。



図1 ワタミヒゲナガゾウムシの成虫

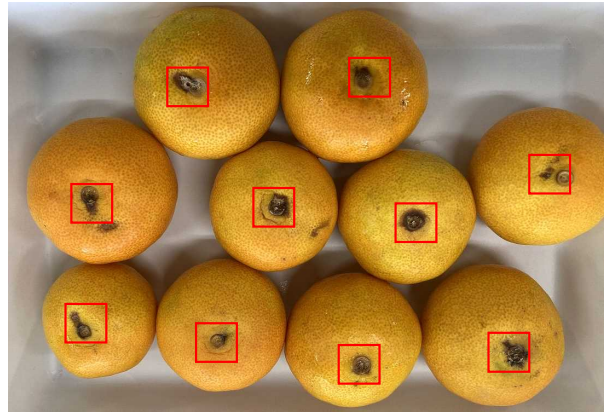


図2 ワタミヒゲナガゾウムシに加害された果実
(赤枠内の褐色部分)

表 かんきつでワタミヒゲナガゾウムシに登録のある農薬（登録内容：令和6年8月1日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	使用液量	IRAC コード
テルスター水和剤	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	200～700 L/10a	3 A